

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2022年 第47週（11月21日～11月27日）

今週のコメント

～インフルエンザ～ 咳エチケット、手洗い、マスクの着用が重要

定点把握感染症

「インフルエンザ ほぼ横ばい」

第47週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,067例であり、前週比1.7%減であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、手足口病、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナ、突発性発しんの順で、定点あたり報告数はそれぞれ2.99、0.87、0.45、0.37、0.24である。

感染性胃腸炎は前週比3%増の587例で、大阪市南部4.89、大阪市西部4.10、堺市3.79、南河内3.69、中河内3.20であった。

手足口病は10%減の170例で、中河内1.55、南河内1.38、堺市1.37である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は7%増の89例で、中河内1.75、大阪市南部1.33、大阪市西部0.70であった。

ヘルパンギーナは15%減の72例で、大阪市南部0.72、泉州0.63、大阪市東部0.53である。

インフルエンザは4%減の148例で、定点あたり報告数は0.49であった。大阪市北部1.55、堺市0.69、北河内0.68である。

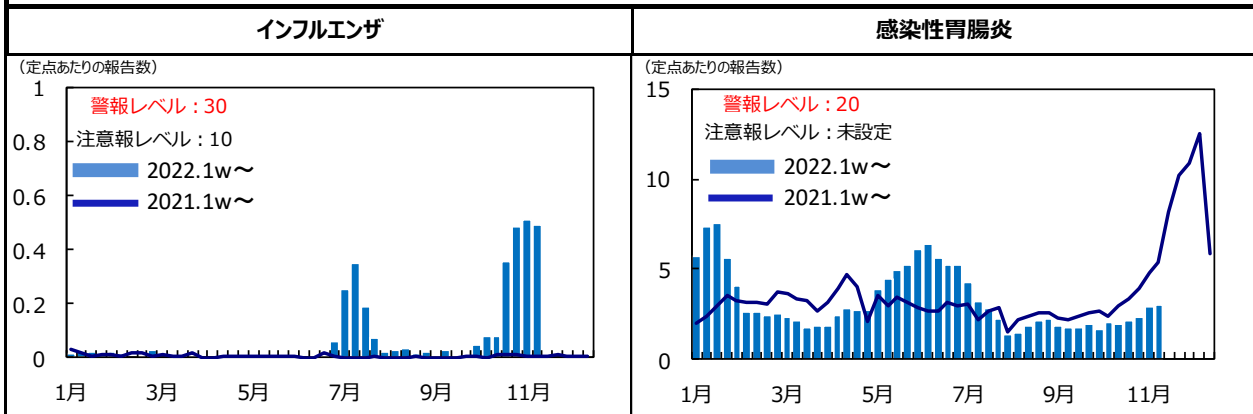


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第47週11月21日～11月27日）

第47週の順位	第46週の順位	感染症	2022年 第47週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2021年 第47週の 定点あたり 報告数	2022年第47週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	2.99	3%増	5.36	2歳_14%
2	2	手足口病	0.87	10%減	3.37	1歳_39%
3	4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.45	7%増	0.31	6歳,10-14歳_13%
4	3	ヘルパンギーナ	0.37	15%減	0.62	2歳_29%
5	5	突発性発しん	0.24	増減なし	0.30	1歳_68%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.49	4%減	0.00	20歳以上_20%

突発性発しんについて、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。2022/23年シーズンのインフルエンザ集計は第36週から開始しました。

第47週のコメント

～腸管出血性大腸菌感染症～ 食肉・食材の十分な加熱処理、調理器具の十分な洗浄や手洗いの励行などにより、食中毒や感染拡大の予防を徹底することが重要です

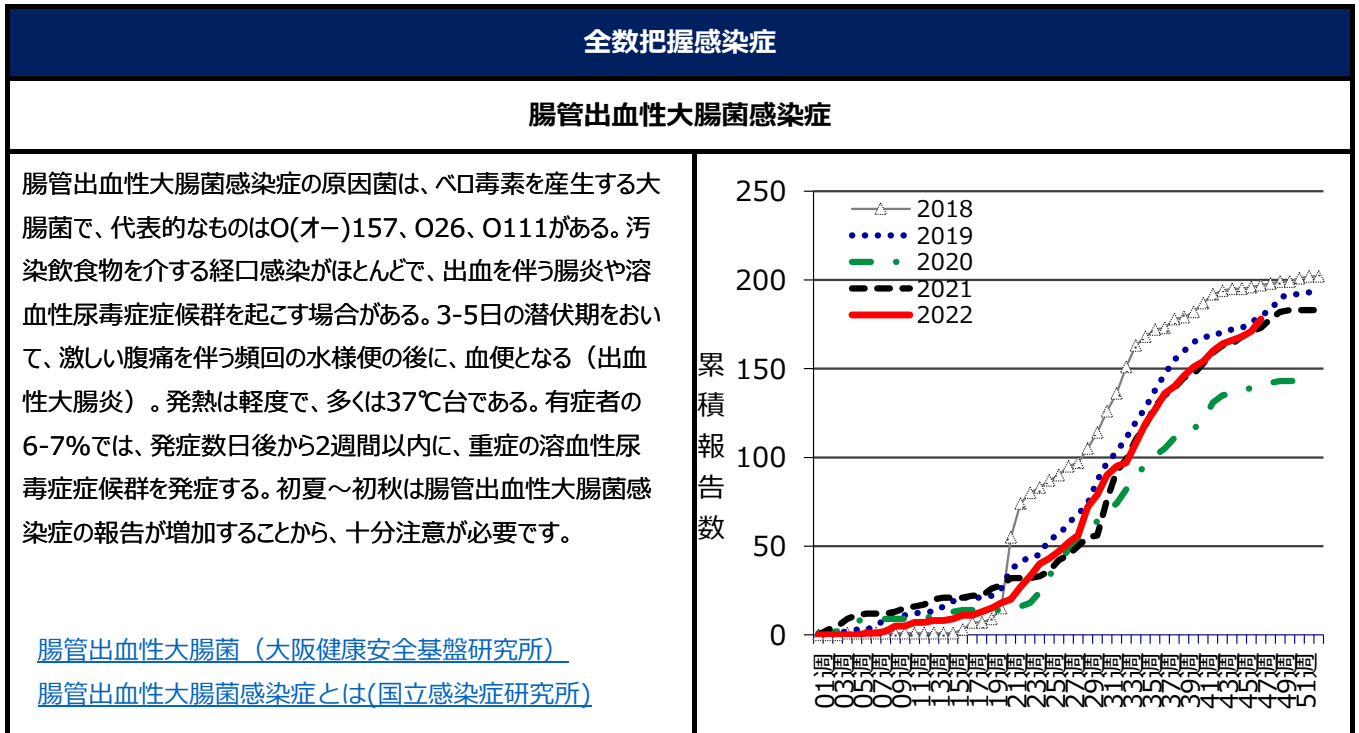


表2. 大阪府全数報告数（2022年 第47週11月21日～11月27日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 ()内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数	
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	7							1	6	178	
4類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	2			1		1				104	
5類感染症	ウイルス性肝炎	2			1					1	10	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1		1							138	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3	1			1	1				36	
	後天性免疫不全症候群	3								3	85	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2							1	1	14	
	侵襲性肺炎球菌感染症	1							1		91	
	水痘（入院例）	3		1							2	16
	梅毒	15	1		1				1	12	1,553	
	播種性クリプトコックス症	1								1	5	
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	33,485	2020年1月以降累計 2,273,192									
結核 (2022年9月分)	結核 新登録患者数：56名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 31名) (府内累積報告数 806名、内 肺・喀痰塗抹陽性 308名)											

(2022年11月29日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。
[詳細はリンク先の『令和2年11月1日まで』と『令和2年11月2日以降』をご覧ください。](#)